

御霊によって歩みましょう ガラテヤ人への手紙 5章 16～26節

夏休みの間、登山の時、考えさせられたのは、山頂まで行く、ただし道を探したいならば、地図とコンパスが必要だ。聖書は人生の地図であり、聖霊の導きはコンパスの役割だともいわれている。その上、申命記 31:8 が心の中に響いてきた、「主ご自身があなたに先立って進まれる。主があなたとともにおられる。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。恐れてはならない。おののいてはならない。」主が私に先立って進まれるということ、とても深く感じた。何処でも道になり得ますが、何処へ行けば正しいのかという不安がないのは、導きがあるからなのだ。ガラテヤ 5:16～26 のテーマは、御霊によって歩もう とか 御霊の導き と言われている。聖霊の導きのことばが三回出てくる。16節、「御霊によって歩みなさい」、18節、「御霊によって導かれているなら」、そして、25節、「御霊によって進もう」。

ガラテヤ 5 章の前半はキリストの中の自由と自由の誤用の可能性について説明している。16-26節は、自由を誤用しないようにするための解決方法を語っている。自由の誤用の核心的な問題は肉の欲望だ。パウロがはっきり言ったのは、道が二つあるということだ。御霊によって歩むみちを選ぶか？肉の欲望を満たす道を選ぶか？肉の欲望を満たすというのは、勝手気ままに振る舞うことを指し、情欲のままに行動することだ。肉の欲望を満たすことがもたらす結果は、罪にさえなり得る。そういう行動はありえないとパウロがはっきり13節でいっている。16節はその教えの続きだ。自由を履き違えてしまうことに対する予防方法は、「御霊によって歩むということだ。

肉と御霊は互いに対立している

「肉が望むことは御霊に逆らい、御霊が望むことは肉に逆らうからです。この二つは互いに対立しているので、あなたがたは願っていることができなくなります。」肉と御霊は互いに対立していることを明らかにする。それは、白黒を明らかにするのと同じようなことだ。ローマ 8:4、「肉に従う者は肉に属することを考えますが、御霊に従う者は御霊に属することを考えます。肉の思いは死ですが、御霊の思いはいのちと平安です。」肉に従う者の考えの基礎と御霊に従う者の考えの基礎は全く違う方向だ。肉に従う者の考えは欲望を満たす方向だ。御霊に従う者の考えは神を喜ばせることを追求する。5節で、パウロはガラテヤ人への手紙 5 章と同じ結論をはっきり述べる。「肉の思いは神に敵対するからです。」「肉のうちにある者は神を喜ばせることができません。」肉と御霊は対立していることを説明し、私たちの願いと実際の行いの間に隙間ができてきていることの原因だと解説している。その隙間ができていたので、私たちが願っていることができなくなる。その前の7:18でパウロは、私のうちに住んでいる罪は私たちの肉の欲望の中で働いて、肉に属する、と教え、その結果は私が自分したいと願う善を行わなくなる、と描写している。「私が自分でしたくないことをしているなら、それを行っているのは、もはや私ではなく、私のうちに住んでいる罪です。」

二つの選択肢がある。肉に従うか、つまり私のうちに住んでいる罪に従うか、または、御霊に従うか？申命記30:19、「私は今日、あなたがたに対して天と地を証人に立てる。私は、いのちと死、祝福とどのろいをあなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい。」肉に従うならば、その結果は死とどのろいだ。神様の道に歩み、主の命令と掟と定めを守るなら、つまり御霊に従うならば、その結果はいのちと祝福だ。主の命令は、私たちにとって難しすぎるものですか？遠くかけ離れたものですか？確かに、今この世代の私たちには、私たちが分かる言語の新旧約聖書もあるし、沢山の聖書の解釈の本も出版されているし、ネットには、大量の聖書に関する記載がある。しかし、気をつけなければならないことがいくつかある。異端のホームページとか、極端な教えとか、間違った教えなどがよくあるからだ。二つのホームページを紹介したいと思う。聖書入門.COM <http://seishonyumon.com/> 聖書放送 <https://bbn1.bbnradio.org/japanese/>

モーセはいのちを選びなさいと言った。けれども、選ぶ前に、いのちの道という選択肢があるということを知ることが必要だ。知ったら、理解し、行うこともとても重要だ。知ること、理解することも、行うことも、御霊の働きだ。聖霊についての主イエスの教えをみてみましょう。ヨハネ 14:26、ヨハネ 16:13。聖霊は、助け主であり、私たちにすべてのことを教え、私たちにすべての真理に導いてくださって、イエス様が私たちに

話したすべてのことを思い起こさせてくださる役割をしているということだ。

「慰め」と聞くと、温かくて気持ちのいい掛け布団を思い出すか。フランスの有名な壁掛け「オド先生は軍隊を慰める」の中に示したのは、オド先生は兵隊たちに、ふわふわした掛け布団を上げたのではない、棒を持って、後ろからつついているのだ。ふわふわ、温かいどころではない。聖書の慰めには「気持ちよくする」という意味だけではなく、「助けを送る」という意味も含まれている。

私たちがやめたいと思う時、怖がっているときに、神様は聖霊、つまり慰め主を送って、私たちに力を与え、励まし、立ち上がらせてくださる。確かに、肉との戦いは激しいし、それは長期戦であるのです。御霊によって歩みたい思いを持っていれば、肉の欲望の声を断らなければいけない。肉の欲望を満たしたくなると御霊の導きに従っていくことができない。ガラテヤの一つ大切なテーマは律法からの解放だ。信仰によって義と認められ、律法の縛りから解放され、本当の自由になる。

肉のわざとはどういうことですか？ 19節に肉の欲望のリストが載っている。4つの種類に分けられ、4つのグループの形で書いてあり、一つ目のグループは、個人的な欲望、特にセックスに関する欲望を管理しないと、身持ちの悪さ勝手気まま節度の無さにつながる。それらは姦淫であり、性に関わる不道德の事である。二つ目のグループは、偶像や他の本当は神ではない神々に関することだ。その時代の中では、偶像礼拝と淫らな行いには密接な関係があった。三つ目のグループは、人間関係に関することだ。人間の中は自己中心ばかりで、自分の利益のために他の人が傷ついてしまうことを多くやっている。最後のグループは、自制がないと勝手気ままに振る舞ってしまうことに関係している。肉の欲望は罪の源であり、さまざまな欲望を満たしていくことは、罪だと知っていますが、続けて犯してしまっている。

パウロがテモテへ 第一で「私は罪人のかしらです」と言っている。ローマ人への手紙やテモテへの手紙のなかに、パウロは自分の心の中の肉の欲望との戦いに関する描写とか、自分の罪に対する反省などを、よく書いている。自分の闇を認め、それに向き合う態度は、クリスチャンの霊的な成熟度を表す。神様との関係が深くなれば深くなるほど、聖書の教えを受け入れれば受け入れるほど、自分の罪深さを感じさせられる。ヨハネ 16:7~8 助け主、つまり、聖霊の仕事は、義について、さばきについて、世の誤りを明らかになさることだ。明らかにというのは、光が明るくて物がはっきりしているさまだ。聖霊は光のように、この暗闇のような肉の欲望を満たしたい世界の価値観に照らしている。心の中を聖霊の光が照らしていると、私たちの物事に対する見え方が変わる。サングラスや色付きレンズのメガネをかけたことがありますか？ もし、この世界の価値観の罪を犯しても平気だというレンズを使うと、罪を感じにくくなるはずだ。聖霊の光のレンズを掛けると、自分の罪に敏感になる。逆に、自分の罪に無関心を持っていることをみると、その人はまだ聖霊を受け入れていない、まだイエス様の救いを受け入れていないということだ、とパウロが言っている。聖霊付きレンズと、この世界の価値観のレンズの、どちらを使っているか？

御霊の実は 聖霊のおかげで、クリスチャンはこの九つの霊的なすばらしい特質をいただけるのだ。信仰によって、イエス様が十字架で成就した救いをいただき、主と共に歩むことを始め、喜びのいのちを持ち、喜びのある信仰生活を送る。こういう人は心の中に、善意を持ち、周りの人に酷いことをしない。他の人を愛し、他の人のことに気を配り、平安や平和がある人間関係を立ち上げる気持ちをよく持っている。柔和な態度で、人々や物事に接する。周りの人の間違いや足りなさを受け入れ、寛容と親切の心を表す。忠実と誠実があり、信頼できる、頼られる。自分の欲求を自制することが出来る。御霊の九つの実、その九つの特徴は、愛し合う信仰生活の重要な要素だ。聖霊の導きは私たちの個人的な霊的の成長の助けになり、さらに、クリスチャンのコミュニティの中で、互いに建て上げる上でも重要だ御霊によって歩む、つまり聖霊の助けがなかったら、愛し合うことはできません。ローマ 12:1~2、この世と調子を合わせてはいけません。聖霊によって心を新たにすること、また聖霊によってみかたを変えていくことを、求めましょう。今の時代は、道が見えない、深い霧の中にいるような時代だ。地図とコンパスをしっかりと持ち、聖書を読み、理解し、身につけ、聖霊の導きもいつも求めましょう。「主ご自身が私たちに先立って進まれます。」